

第10回人権賞 受賞者 マリエッタ吉田

【受賞理由】

在フィリピン国残留日本人孤児の日本国籍確認と戸籍の回復・就籍、日本国に戸籍記載のある者の戸籍と本人の一致確認、在フィリピン国日本人孤児の所在と日本国の本籍並びに肉親の所在調査、在フィリピン残留孤児及びその家族についての日本国籍確認と戸籍の回復・就籍及び親族訪問、日系人として就労・就学のための日本国入国・在留手続その他必要な連絡などの取り組みに対して。

Q1 どのようなきっかけから「受賞テーマ」に取り組むようになりましたか。

私自身日系人2世であり、このフィリピンにて戦災を受けた。私たち家族以外の日系フィリピン人たちの戦後の苦労も見てきた。反日感情を恐れて山中に隠れ住み、教育もなく苦労している日系人が、今なおこの国に存在している。私は、日経人としてこの方々を助けたいと思った。

Q2 その活動には、どのようなご苦労がありましたか。

山中に隠れ住んでいる日系人を探しに行くが、そこはとんどフィリピン反政府軍がいる山々である。道もなく、橋もなく、やはり62歳の体には無理がかかるが、日系人を探しだしたときの感動は疲れをも忘れさせてくれる。

Q3 人権賞を受賞してどのような変化がありましたか。

いろいろな方々からお褒めのお言葉をいただき、日系人たちの信頼を得たこと。一方、日系人を助けるという同じ目的をもった他の団体からの僻みが強くなったこと。

Q4 「受賞テーマ」はどのように発展・継承され、現在はどのような活動状況となっていますか。

事務所一つから始めたものが現在では六つになり、よりよく日系人たちを助けられるようになった（マニラ・ダバオ・イリガン・バギオ・ジェネラルサントス・セブ）。

なお、現在では、フィリピン政府より認められた財団になっている。

Q5 あなたにとって、いま最も関心のある「テーマ」は何ですか。

今のところまだない。

Q6 新たにはぐくむべき「人権」のテーマなど、今後の抱負や活動目標とともに聞かせてください。

今なお増え続けている「新日系人」（ジャピーノ）のための活動に力を入れている。彼らは、母親がエンターテナーという理由だけで日本語教育を受けられないでいる。私は、この子どもたちのために学校を節理したいと願っている。